



2017年
10月7日(土) - 12月24日(日)

主催：和歌山県立近代美術館
共催：公益財団法人 福武財団
協力：岡山県立美術館、太地町立石垣記念館
企画協力：岡山大学大学院教育学研究科国吉康雄を中心とした美術鑑賞教育研究講座

1
国吉康雄
《ミスター・E》
1952 (昭和27)
油彩、キャンバス
福武コレクション



2
国吉康雄《自画像》
1918 (大正7)
油彩、キャンバス
福武コレクション

アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎 Kuniyoshi Yasuo and Ishigaki Eitaro: Two Emigrants Painting America



3
石垣栄太郎《自画像》
1917 (大正6)
油彩、キャンバス
和歌山県立近代美術館蔵

記者向け内覧会のご案内

10月6日(金) 14:00~15:00

.....
プレス関係者を対象に内覧会を実施いたします。ぜひ、この機会を利用してご取材いただき、国吉康雄と石垣栄太郎展の魅力を発信していただきますようお願い申し上げます。



4 石垣栄太郎《ボーナス・マーチ》1932 (昭和7) 油彩、キャンバス
和歌山県立近代美術館蔵

和歌山県立近代美術館

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690 FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp WEB <http://www.momaw.jp/>

アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎

2017年10月7日(土)～12月24日(日)

国吉康雄(くによし・やすお/1889-1953)と石垣栄太郎(いしがき・えいたろう/1893-1958)。

戦前のアメリカへ移民として渡り、太平洋戦争という困難な時期を挟みながら、画家として活躍した二人の足跡を辿ります。

国吉は岡山県岡山市から、石垣は和歌山県東牟婁郡太地町から、ともに二十歳にもならない若さで移民としてアメリカへ渡りました。様々な職に就きながら、美術学校に通い、画家を目指した二人は、ともに1920年代から活発に作品を発表し始め、ほぼ同時代をアメリカで過ごしています。

アメリカ画壇での評価を受け、戦後はホイットニー美術館にて、現存画家として最初の回顧展が開催されるなど、アメリカを代表する画家として認められた国吉。生活や風俗を描き、また社会主義に傾倒するなかで同時代の様々な問題を告発する絵画を描いた石垣。二人は、絵の修業を始めたアート・スチューデント・リーグ時代に出会って以来、友人関係にありました。1930年代にはニューヨークにて隣のアパートに暮らし、屋上の屏をまたいで頻繁に行き来していたと石垣の妻、綾子(1903-1996)は回想しています。太平洋戦争が始まると、彼らは「敵性外国人」という立場に置かれますが、アメリカの自由と民主主義の理想を信じ、日本の軍国主義を批判しました。

メッセージを巧みに画面に忍ばせ、象徴的な事物などによって語らせる国吉、より直截に物事を描き出す石垣と、それぞれに作風は異なりますが、二人の作品には、日本人移民排斥や大恐慌、戦争などアメリカ社会が激しく揺れ動いた時代に、二つの国の間で生きた画家の複雑な思いが込められています。

展覧会では、その時代と社会に対して二人がどのように向き合い、作品を残したのかを、あらためて見つめる機会としたいと思います。

国吉康雄《夜明けが来る》
1944(昭和19)
油彩、キャンバス
5 岡山県立美術館蔵



6 国吉康雄《ここは私の遊び場》
1947(昭和22) 油彩、キャンバス
福武コレクション



8 石垣栄太郎《K.K.K.》
1936(昭和11)
油彩、キャンバス
和歌山県立近代美術館蔵



7 石垣栄太郎《拳闘》1925
(大正14) 油彩、キャンバス
和歌山県立近代美術館蔵

国吉康雄《二人の赤ん坊》
1923(大正12)
油彩、キャンバス
10 福武コレクション



9 石垣栄太郎《人民戦線の人々》
1936～1937(昭和11～12)頃
油彩、キャンバス
和歌山県立近代美術館蔵



開催概要

会場	和歌山県立近代美術館 2階展示室
主催	和歌山県立近代美術館
共催	公益財団法人 福武財団
協力	岡山県立美術館、太地町立石垣記念館
企画協力	岡山大学大学院教育学研究科国吉康雄を中心とした美術鑑賞教育研究講座
会期	2017年10月7日(土)～12月24日(日)
開館時間	9時30分～17時(入場は16時30分まで)
休館日	月曜日(10月9日は開館し10月10日は休館)
観覧料	一般700(560)円、大学生400(320)円

* () 内は20名以上の団体料金

* 高校生以下、65歳以上、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料

* 毎月第4土曜日(10月28日、11月25日、12月23日)は「紀陽文化財団の日」として大学生無料

* 関西文化の日(11月18日、19日)、和歌山県「ふるさと誕生日」(11月22日)無料

本展覧会の見どころ

【1】今の時代から、国吉康雄と石垣栄太郎の作品を見る

国吉康雄は、アジア系移民というマイノリティーでありながら、ホイットニー美術館で現存作家として初めての回顧展が開催され、全米の美術家組合の初代会長となり、後にはベネチア・ビエンナーレのアメリカ代表となるなど、かつて高い評価を受けていましたが、1960年代以降、冷戦期の社会状況や抽象表現主義などの美術動向が主流となっていくなかで、次第にアメリカでは忘れられた存在になっていきました。

しかし近年は、アメリカの多様性を体現するアーティストとして再評価され、2015年に、ワシントンDCにあるスミソニアン・アメリカンアートミュージアムで開催された大規模な回顧展は、大きな反響を呼びました。その背景には、国吉が直面した移民や人種差別、戦争といった問題が、今の問題として捉えられていることと無縁ではないでしょう。

国吉と同じく、戦前に移民として渡米し、太平洋戦争の時期を挟みながら、アメリカで活動した石垣栄太郎。二人は画家を目指した学生時代からの友人であり、1930年代には、隣どうしのアパートに住み、石垣の妻・綾子も含めた交流がありました。ヨーロッパでファシズムが台頭すると、それに対抗し芸術家の自由を守るための団体、アメリカ美術家会議の結成に尽力するなど行動を共にしました。しかし日本とアメリカの戦争が始まると、二人はアメリカの自由と民主主義の理想を信じながらも、「敵性外国人」として過ごさねばならなくなります。戦後、マッカーシズム（反共産主義に基づく社会運動）のなかでも、国吉は評価を確かにしますが、アメリカ市民権の獲得を目前に逝去しました。石垣は、国外撤去となり日本に帰国することになります。複雑な環境を生きた二人の作品には、そうした葛藤が、対照的な表現方法で描かれています。

【2】国吉康雄は、最大のコレクションを誇る「福武コレクション」を中心に展示。石垣栄太郎は、当館と太地町立石垣記念館の作品を中心に展示。

国吉康雄の故郷、岡山市にある、福武総一郎氏が所蔵する国吉康雄の最大のコレクション「福武コレクション」から、代表作《バンドナをつけた女》1936、《逆さのテーブルとマスク》1940、《ここは私の遊び場》1947、《ミスターエース》1952なども含んだ、初期から晩年に至るまでの作品が出品されます。

また、岡山県立美術館からも《夜明けが来る》1944、《祭りは終わった》1947などの重要作品が出品されます。あわせて約50点を予定。

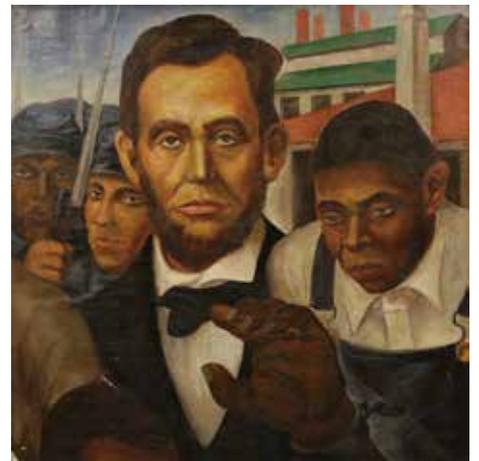
石垣栄太郎は、和歌山県立近代美術館と、石垣の故郷にある太地町立石垣記念館が所蔵する作品を中心に展示します。《街》1925、《ボーナス・マーチ》1932、《K.K.K.》1936といった代表作など約50点を予定。

【3】アメリカに残されていた石垣栄太郎作品を初公開

1929年に始まる恐慌からの大不況時代において、アメリカ政府はニューディール政策によって大規模な経済の立て直しをおこないました。失業者救済にあつた雇用促進局（Work Progress Administration/WPA）は、美術家に対しても支援をおこないます。その一環として石垣はニューヨークのハーレム裁判所の壁画制作に主任として取り組むこととなります。壁画全体の主題は「アメリカの歴史」で、「アメリカ独立革命」「アメリカの独立」「アフリカにおける奴隷狩り」「奴隷解放」の4点が描かれる予定でした。

しかし1937年7月に突然、WPAはアメリカ国籍を持たない美術家はこの計画から解雇する方策を打ち出します。主任の石垣不在のまま壁画制作は続けられ、「アメリカの独立」「奴隷解放」の2点が完成します。1938年3月に地区の住民に公開されると、大変な非難を浴びせられてしまいます。「アメリカの独立」は初代大統領のワシントンの表情が黒人に見えるというのがその理由でした。念願の壁画制作の機会を与えられた石垣でしたが、最終的に壁画は撤去されてしまいました。

12 『LIFE』（ライフ）誌1944年4月17日号



11 石垣栄太郎《ハーレム裁判所のための壁画》(部分) 1938(昭和13)頃 油彩、キャンバス 個人蔵



13 壁画を制作中の石垣栄太郎(中央)

失われたと思われていた、ハーレム裁判所のための壁画ですが、その一部分がアメリカに残されていました。今回、日本で初めて公開します。

残されていたのは「奴隷解放」の右上部分。大統領リンカーンの顔を中心に、ほぼ正方形に切り抜かれています。この部分は、1944年の『LIFE』(ライフ)誌に掲載されていたことも、今回確認されました。

【4】多彩な関連イベントを開催。

アジア系アメリカ人芸術家の研究者であるカリフォルニア大学マーセド校准教授、王士圃(シープー・ワン/ShiPu Wang)氏による国吉と石垣をめぐる講演会、アート・スチューデント・リーグで国吉康雄の教えを受けた画家たちのインタビューなどにより国吉康雄を再検証するドキュメンタリーの上映会、ギャラリーツアーのほか、子どもを対象とした鑑賞会、ワークショップなど、さまざまな関連イベントを開催します。

関連事業

●講演会「包囲された人々：石垣栄太郎と国吉康雄の身体表現」

【日時】10月14日(土)14時～2階ホールにて(13:30開場/先着順・定員120名)

【講師】王士圃(シープー・ワン/ShiPu Wang)カリフォルニア大学マーセド校准教授

【通訳】櫻井敬人(太地町歴史資料室学芸員)

国吉康雄をはじめとしたアジア系アメリカ人芸術家を研究。今夏には石垣栄太郎についても論じた『THE OTHER AMERICAN MODERNS. Matura, Ishigaki, Noda, Hayakawa』を出版。来年には企画した小圃千浦展の巡回が控えている。

●国吉康雄検証ドキュメンタリー「国吉を誤解している日本・忘れたアメリカ」(1時間程度) 監督：才士真司(岡山大学准教授/本展共同企画/映像作家)

【日時】11月19日(日)、12月3日(日)いずれも14時～2階ホールにて(13:30開場/先着順・定員120名)

国吉康雄の教えを受けたブルース・ドーフマン氏、国吉研究の第一人者であるトム・ウルフ氏などのインタビューを和歌山初上映。

●フロアレクチャー(学芸員による展示解説)

【日時】10月9日(月・祝)、10月29日(日)いずれも14時～展示室にて(要観覧券)

●ギャラリーツアー 才士真司(岡山大学准教授)+奥村一郎(当館学芸員)

【日時】12月24日(日)14時～展示室にて(要観覧券)

●こども美術館部「ひとりとふたり」(隔月開催の小学生対象鑑賞会)

【日時】12月9日(土)14時～(14時までに受付にて参加登録、要観覧券)

●ワークショップ「見て、描いて、国吉康雄」

【日時】12月10日(日)13時～(高校生以上対象、事前申込制)

【ナビゲーション】岡山大学大学院教育学研究科美術教育コース

【共催】岡山大学大学院教育学研究科国吉康雄を中心とした美術鑑賞教育研究講座、和歌山県立近代美術館

国吉が制作に使用したカゼイン絵の具を用いたワークショップ。詳細はホームページなどでご案内します。

▶ 掲載用画像については
広報担当にお問合せ下さい。

.....
文字のせ、トリミング等は
ご遠慮ください。

【同時期開催】

コレクション展 2017-秋

特集展示 NANGA 俗を去り自ら楽しむ

【会期】開催中～12月17日(日)

【会場】1階展示室

和歌山県立近代美術館

学芸担当：奥村一郎 広報担当：島

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690 (代表)

FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp

WEB <http://www.momaw.jp/>